

今週のメニュー

■トピックス

◇ホームページ(HP)上の「リサイクル情報」をリニューアル

■随想

◇バスケットで勝負！ 一脱サラ、渡米、プロ選手ー（1）

プロバスケットボール選手 松田 鋼季

■編集後記

■トピックス

◇ホームページ(HP)上の「リサイクル情報」をリニューアル

塩ビの使用済み製品のマテリアルリサイクル(MR)は、プラスチックの中で最も古くから取り組まれてきました。このため、塩ビは汎用プラスチックの中でMRが最も進んでいます(2012年、MR比率：塩ビ28%、全プラ22%)。具体的な塩ビのMRの事例としては、農業用ビニールハウス(農ビ)、パイプ、電線被覆材などありますが、最近では建材に使用される壁紙や床材でも新しい方法によるMRが進んできています。そして、今も尚、この努力は続けられてきています。弊協会では、このような努力の一助なればという思いから、ホームページ上に全国のMR施設紹介を掲載してきましたが、掲載データが古くなったので、今回そのデータをリニューアル致しました。

弊協会のホームページ上の「リサイクル」メニューの中に「業界の取組み」というサブメニューがあり、その中に「[リサイクル情報](#)」という項目があります。この「リサイクル情報」は、「受入・処理可能なマテリアルリサイクル(MR)施設紹介」、「サーマルリサイクル(TR)・焼却施設紹介」及び「リサイクル相談窓口」で構成され、これらの中で、特にデータが古くなったと考えられる「受入・処理可能なMR施設紹介」をリニューアルし、4月10日からHP上の公開を始めました。

今回のリニューアルでは、使って頂く方々の利便性に配慮し、受入施設一覧(52施設)と製品別受入施設一覧に分けて掲載しました。前者では、連絡先、受入品目、受入量及び受入頻度を掲載し、その施設に係る殆どの受入情報が入手できると考えています。また、後者では、例えば、パイプ端材・廃材を受入・処理可能な施設情報という様な製品別受入施設情報を網羅し、具体的な製品処理を考えている方々が簡単に検索できるようになっています。

塩ビ リサイクルの手引き		
循環型社会に向けて		
■ マテリアルリサイクル		
● 受入施設一覧		
● 製品別受入施設一覧		
硬質	パイプ・継手 成型品	硬質フィルム・シート 異型押出品
軟質	農ビ レザ一類 床材 電線被覆材	一般フィルム(半硬質含む) 壁紙 軟質押出品
■ サーマルリサイクル・焼却		
● 受入施設一覧		
■ VEGリサイクル相談窓口		

より多くの施設を掲載していくことが、今まで以上に多くの方々の役に立ち、充実させることだと思っています。この記事をご覧されて、掲載希望をされる施設の方々は、遠慮なくご相談を頂ければと考えています。

◇バスケットで勝負！ 一脱サラ、渡米、プロ選手ー（1）

プロバスケットボール選手 松田 鋼季

はじめまして。プロバスケットボール選手の松田鋼季です。

『プロバスケットボール』と聞くと、まず思い浮かべるのがNBA(National Basketball Association)ではないでしょうか。NBA とは、アメリカ、カナダに全 30 チームを有する北米のプロバスケットリーグで、アメリカンフットボール・野球・アイスホッケーと並んで、北米4大スポーツリーグの一つです。中でもNBAは1試合で1チーム100点以上決めることが当たり前の切り替えが早く、得点シーンが多く、ダンクシュートなどの派手なプレイが多くファンを魅了します。日本人でNBA 選手となったのは田臥勇太選手のみです。僕はその NBA に挑戦する為、海を渡り、現在、プロバスケットボールリーグ ABA に所属するシカゴ・スティームの選手として契約を結んでいます。

ABA (American Basketball Association) とは、1999 年に設立された米プロバスケットボール独立リーグで、NBA のチームに採用されなかった選手も多く在籍しています。リーグトップクラスでプレイする選手の中には NBA 進出のチャンスを狙う人も多く、日々練習を重ねて試合に挑んでいます。ABA の規模や選手レベルは、米国内の独立リーグの中でもトップクラスを誇っています。

今回、VEC の方からその生き様と情熱を書いてほしいとの依頼があり、挑戦する前の職業が報道記者で、文章を書くことに抵抗もないことから依頼を受けることにしました。

僕は北海道の最北限の島、礼文島出身です。現在も実家は礼文島にあり、毎年シーズンオフは帰省しています。人口 3000 人弱の過疎化が進む島で、漁業と観光業が盛んです。僕はこの小さな島に中学卒業まで住んでいました。

僕がバスケットをやるきっかけは、バスケットが趣味の父の影響でした。物心ついた時から当時日本でも人気だった NBA のマイケルジョーダンやチャールズバークリーの試合を衛星放送で見ているうちに、「いつか自分も NBA のコートに立つ」と思うようになりました。

僕がバスケットを本格的に始めたのは札幌北陵高校に入学してからです。初めての部活では、わくわくした気持ちと不安の両方が混じっていたのを今でもはっきり覚えています。(バスケットの試合などはテレビで多く見ていましたが、実際にコートに立って本格的な練習は初めてだったのです。)

同校の^{かずまだ}数馬田監督との出会いが僕のバスケット人生を大きく変えました。「鋼季、プロになりたいか？」と質問され、「なります」と返答して以来、僕に休みはありませんでした。



Professional basketball Player

松田 鋼季 Kouki Matsuda

生年月日 1985 年 2 月 22 日

出身 北海道礼文郡礼文町

身長/体重 185 センチ/85 キロ

最終学歴 日本大学

【website】 <http://matsudak.main.jp/>

【戦績】

2011 6 月 北海道文化放送(UHB)の
報道記者時代、アメリカ独立プロ
リーグ ABA CHICAGO STEAM の
トライアウト受験、合格

2011~12 シーズン 地区優勝、全米 4 位

2012~13 シーズン 地区優勝、全米 4 位

夏休みの間も、僕は先生と一緒に砂浜ランニングをするため海へ。ときにはピクニックで行くような公園で陸上トレーニングをして、びしょびしょに汗を流し恥ずかしい思いもしました。

高校からバスケットをはじめ、基礎が未熟な僕にとって、基礎練習をみっちりしてもらったこの期間がなければ、今の選手としての僕はありません。

高校を卒業後、関東の大学へ進学しました。

大学時代の一番の思い出はアメリカ・ロサンゼルスにバスケット留学したことです。留学と言っても、親にお金を借り、なけなしの小遣いをはたいて、ストリートバスケットのつわものが集まるといふベニスビーチでバスケットをすることが目的でした。

そこで黒人の親友Mができました。Mは実家が貧困で、自分がバスケット選手になって、稼ぐしかないといふ、ストリートで技術を磨いているつわものでした。お金を稼ぐために、少々危ないこともやっていたと思いますが、僕にはそんな一面は見せず、貧乏同士、ジュース1本を2人で分けて飲んだりして、意気投合していました。

すでにアメリカでプロ選手になるのが目標だった当時の僕。しかし、黒人の中学生にぐうの音もでないほど、1 ON 1 でボコボコに負けた苦い記憶とともに「僕はアメリカでプロ選手にはなれない。これが現実なんだ」と諦めたことが鮮明に残っています。

「アメリカでプロ選手になる」ことを諦めた僕は就職活動をし、北海道のテレビ局に報道記者として入社しました。昼夜問わず、事件事故があったら、現場に行き、レポートし、インタビューをとりました。報道記者は魅力的で、文字通り「ニュースの最前線」を感じることができる、刺激的な仕事でした。

記者の仕事に慣れた入社3年目のある日、僕の携帯に一本の国際電話がかかってきました。

ロサンゼルスで出会った親友Mの母親からでした。「Mが死んだ。鋼季はプロになってアメリカにもどってくると約束していたのに、いつまでたっても来ないと生前言っていた」と伝えられました。

それがきっかけで、大学時代より10キロ以上肥えてしまった体を鍛え直し、シューティングをはじめ、夜のランニングを始めました。もちろんMとの約束を果たすのと同時に、自分自身の目標に再び向かうためです。

しかし、今考えるとこの期間が精神的に一番つらかった時かもしれません。丁度、東日本大震災や原発事故など様々な災害、事件、事故があり、昼間は記者の仕事、真夜中に帰ってきて、睡眠時間を削ってのトレーニングはとてつきつものでした。

2010年5月、ABA シカゴスティームのトライアウトを受け、合格。すぐ日本に戻り、会社に退職の意思を伝えました。このとき、迷いがなかったかと言えましょうそになります。安定的な会社員という仕事を辞め、いつ解雇されるかわからない世界に飛び込むからです。同年9月、僕はテレビ局を退社し、アメリカに渡りました。



バスケット留学。右端が僕。



■ 編集後記

日本の空からすべてのボーイング 747 が退役したというニュースを見ました。

私と同じ 1970 年の生まれ。私が最初にジャンボに乗ったのは欧州便。当時はシベリア上空を飛行しヨーロッパに向かう航路がなかったのでアラスカ（アンカレッジ）経由の北回りでイギリスへ。アンカレッジ空港で給油待ちの間は日本蕎麦を食べ、免税店で買い物をし、機内では北極海上空でオーロラ鑑賞など感動した事を懐かしく思い出しました。

44 年間日本の空をお疲れさまと思いつつ、44 年という年月に私もだいぶ疲れてきているなと現実を実感しました（リマル）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 東 幸次

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp